

(訂正) 新型コロナウイルス感染症蔓延予防対策における競技に関する申し合わせ事項

①全体に関わって

- ・(公財)全日本空手道連盟感染症拡大防止ガイドラインに基づき、本大会は無観客で行うものとする。
- ・大会関係者(選手・役員・審判・監督)入館時に体温チェックを受ける。
- ・当日、以下の項目に当てはまるものがあれば、入館・参加を見合わせる。

□ 発熱、咳、咽頭痛などの症状がある場合

□ 同居家族や身近な知人に感染が疑われている場合

□ 過去14日以内に政府からの入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

- ・開閉会式・表彰式等は行わない。

・各団体1名のみ監督をつけることができる。(監督の服装は空手衣とする。)

- ・保護者は送迎のみとし、原則入館しない。(入館が発覚した場合は当該選手の失格もあります。)

※ビデオ・写真撮影については、大会運営本部および道場代表者による撮影のみ可とする。

- ・開放可能な出入口扉及び窓は、常時開放し、良好な換気状態を保つ。
- ・アリーナ出入口、各コート等複数個所に消毒液を配置。各自こまめな手洗い・手指の消毒を行う。
- ・競技中の選手以外は、全員マスク着用を原則とする。
- ・ゴミ袋を持参し、鼻水、唾液がついたゴミやマスク等のゴミは必ず持ち帰る。
- ・大会終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、大会主催者に対し速やかに報告すること
- ・受付・待機中・競技中など、大会中は常に、会場内でのソーシャルディスタンスを確保する。
- ・他の施設利用者との接触を極力避ける。(出入口の指定等)

②受付に関わって (入館者すべて対象)

・受付時に入館者は、入館名簿に名前と住所を記入し検温を受ける。

- ・入館時に発熱(37.5度以上あるいは平熱より1度以上高い)があった選手は、棄権とする。
- ・受付時に、「健康管理チェックシート」を提出する。※提出がない選手は「棄権」とする。

③選手に関わって

- ・競技が終わった選手から順次退館、帰宅する。応援等で残ることはしない。
- ・選手の荷物はアリーナ内に2m以上間隔をとって置くこと。※今回、観客席は使用しない。
- ・マスク着用が原則。着用しない場合は選手同士の距離は2m以上確保する。

- ・競技中の選手以外はマスク着用を原則とする。
- ・選手は競技中のみ、マスクをはずしてもよい。（マスクを入れるためのビニール袋やケースを持参する）
- ・待機中は必ずマスク着用。マスク着用時も他の競技者との距離は1 m以上空ける。
- ・形・組手競技ともに、マイ帯の使用を原則とする。
- ・マイ帯がない選手は、各校で申込用紙に必要数(赤・青セット1組)を記入する。当日、受付で赤・青帯を配布。大会中は貸し借りせず、競技終了後、大会本部に返却。

・練習会場

- ・競技に関わっては、(公財)全日本空手道連盟感染拡大防止ガイドライン【大会用】(2020.9.29版)及び本大会申し合わせ事項に基づくものとする。
- ・練習会場は、メインアリーナ後方を開放するが距離をとって練習すること。練習時間・入館対象者は、大会進行表に従って利用する。（進行表は大会1週間前頃に連絡します。）
- ・観客席での飲食は可能だが、食事中が一番感染リスクは高いため、向き合って食べるなどないよう注意する。
- ・防具・タオル等の使いまわし、飲み物の回し飲みは禁止とする。
- ・練習時はマスクまたは、メンホーを着用すること。
- ・競技中及び練習場所での私語は控えること。

④形競技

- ・形競技は学年別で行い、得点方式・ラウンド制とする。
- ・試合前に各コート競技役員に形名を申告する。
- ・形名の呼称と、競技中の気合い発声は可とする。（気合いが無くても採点の対象としない。）
- ・競技方法は要項記載の通りとする。

④組手競技

- ・組手競技は学年別トーナメント戦とする。
- ・競技時間は通常1分30秒間のところを、今大会に限り1分間のフルタイムとする。
- ・勝敗は6ポイント差とする。
- ・防具の共有、貸し借りは絶対にしない。
- ・メンホーをつけているときのみ、マスクを外してもよい。
- ・接触・飛沫感染予防、対策を考慮して、ニューメンホーシールドを内側に貼る。
(12月よりニューメンホーシールドが購入できるので各自購入して準備すること)
- ・競技中の気合い発声は可とする。
- ・試合前後に防具の消毒を行う。手指に加え、足裏の消毒も行う。

各コートに消毒液・除菌シート(ウェットティッシュ)を用意しておくが、各自で持参も可。）

⑤審判・競技役員について

- ・ 審判は主審を含め全員フェイスシールド及びマスク着用を原則とする。（監督も着用する。）
- ・ 選手との距離は1 m以上を保つ。
- ・ 審判用フラッグは、1人1組用意し、大会中はフラッグの共有はしない。
- ・ 監査は電子ホイッスルを使用する。
- ・ タイマーなど共有を避けられないものはこまめに消毒する。あるいはビニール手袋を着用する。
- ・ 各コートの数消毒液を配置する。